

魅

タイ・シミランクルーズのダイビングでの
大トリとして、
世界的にも人気のリチュエーロック。
その表情は訪れるシーズンによって、
大きく変化する。
ジンベエザメの大当たりの年もあれば、
無数の魚たちに埋め尽くされる年も。

2017年秋～の昨シーズンは、
過去最高と言っても過言ではないほどの魚の群れと、
百花繚乱の華やかさをダイバーに魅せてくれた。

果たして今シーズンは
どんな姿を見せてくれるのか!?

惑

Similan Cruise,
Thailand



の

ocean+α
©ocean+α ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

リチュエーロック

Photo & Text = Takaji Ochi
Edit = Harumi Yamamoto
Special Thanks = edive
Design = Panari Design

タイを代表するポイントと言っても過言ではない「リチュエーロック」

過去最高の
リチュエリー
ロックを見よ

魅惑の
リチュエリーロック

ocean^α

©ocean+α ウェブマガジンの二次配
布および画像・文章の複製、二次使
用を禁じます

こんなカラフルな海中でコブシメの産卵シーンを見たのは初めての体験。美しさに興奮して何度もシャッターを切った



- 01/赤、黄、緑など、カラフルな色彩がリチュエリューロックの表面を覆い尽くす。赤いソフトコーラルの中には、ユカタハタが目につく
- 02/根のトップに広がる緑のエリアは草原のような爽快感。藻をたなびかせるうねりは、新緑の草原を揺らす風のような
- 03/ 鮮明な黄色で統一されたエリアは一際目立つ



ソフトコーラルに 雲海がかかる

何が半端ないのかって、その魚影の濃さと、ソフトコーラルのカラフルさ。元来、リチュエリューロックはそれがウリのダイビングサイト。過去にも何度か潜って、そのすごさは実感してきた。しかし、2018年1月に訪れたときのリチュエリューロックは、過去最高と言っても過言ではないくらいすごさを見せてくれた。これは、僕だけの体験からの話ではなくて、現地ガイドたちでさえ「今シーズンのリチュエリューはずば抜けている」と答えるくらいだった。

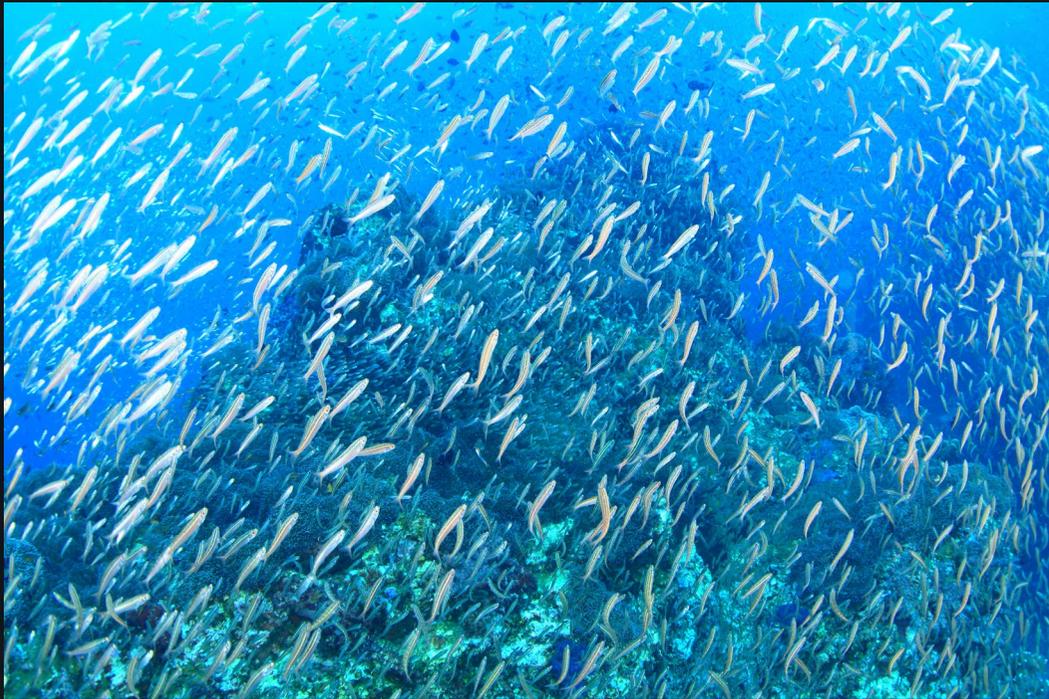
まず、ソフトコーラルの群生。今まででも十分すごかったけれど、元気がかつ色彩豊か。今回はその上をスカシテンジクダイなどが、今まで以上に雲海のように覆い尽くし、カラフルさにアクセントを添えてくれていた。その数も圧倒的だ。

「半端ない! マジで半端ない、今シーズンのリチュエリューロックはマジで半端ない!! 過去最高だ!」そんなことを心の中で叫びながら、僕はアンダマン海にポツンとある岩礁・リチュエリューロックを何度も何度も潜り続けた。



暴徒と化した
捕食者集団による
注意せよ

そして、そんなスカシテンジクダイを捕食しに姿を現した魚たちが集団で見せる捕食行動。それはまるで何かを引き金にスイッチが入り、突然暴徒と化す洗脳されたプレデター軍団のように見えるほど、迫力満点。正直言って、その中に身を置くのが少し怖いぐらいの大迫力だった。



ブラックフィンバラクーダの群れも圧巻だった



しかも、ギンガメアジ、ロウニンアジ、カスマアジ、ツムブリ、そしてキツネフエフキなど、何種類もの捕食者たちが入り乱れ、1日中リチュエーロックの岩周りを徘徊し続ける。「オラオラオラ～、邪魔だ邪魔だ～！ 邪魔すると食っちゃまうぞ～！」とか「マジ食っちゃうぞ～!!」とでも叫んでそんな暴徒集団。1日どころか、おそらくシーズン中、ずっとこんな感じだったに違いない。捕食される側のスカシテンジクダイたちにとっては、気が休まる時間もなかったに違いない。

そんな過去最高のリチュエーロック、今シーズンでも見られることを願っている。

狂喜乱舞する魚たちの熱狂に酔いしれる



イエローバックフエージャーの群れ。もっときれいに撮影したい(右下)

フエージャーの幼魚は、壁のようになって行く手の風景をさえぎる(左上) マブタシマアジが、夕刻、集団産卵のために姿を現した(左下)



緑の藻のエリアが広範囲に
広がったのは最近のことだ



シミランクルーズの 驚くべき多様性

リチュエーロックを潜るシミランクルーズでは、南に連なるシミラン諸島や、コ・ボン（ボン島）、コ・タチャイ（タチャイ島）にあるダイビングポイントを巡りながら、メインイベントのリチュエーロックを目指すのが定番コース。しかし、海況などによっては、先にリチュエーロックを潜ることもあるし、リチュエーの北西に位置するスリン諸島まで足を延ばすこともある。

癒しの砂地ポイントあり、ソフトコーラルの群生が美しいポイントあり、岩礁の地形ポイントあり、マクロが楽しめるポイントあり、バラクーダやギンガメアジが群れるポイントあり、マンタやジンベエザメとの遭遇が期待できるポイントありと、バラエティに富んだダイビングが楽しめる。

また、シーズンによっては、ジンベエザメやマンタとの遭遇率が格段に上がることがある。何が原因かは計り知れないが、そうした大物との遭遇は、やはりこのクルーズの大きな魅力だ。



固有種たちが踊る マクロの楽園へ



- 01/ 尾がトラ模様のタイガーテールシーホース
- 02/ トリンチェシア・シボガイが鮮やかに艶めく
- 03/ ストッキーサンド・タイルフィッシュ
- 04/ 緑の絨毯でくつろぐクロモドーリス・アンヌラータ
- 05/ フヌケヤッコの幼魚。成魚の体色は茶褐色
- 06/ アンダマンドティバックは臆病で撮影が難しい
- 07/ 鼻のヒゲがかわいいイシマイギンボ
- 08/ イザヨイベンケイハゼ

